

第2回

Japan Cancer Neuroscience Meeting 2026

日本がん神経科学研究会

—がん神経科学が解き明かす新しいがん生物学—

プログラム

会 期

2026 年
10月10日(土)

会 場

国立がん研究センター研究所
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

大 会 長

成田 年
星薬科大学・薬理学研究室
国立がん研究センター研究所・
がん患者病態生理研究ユニット

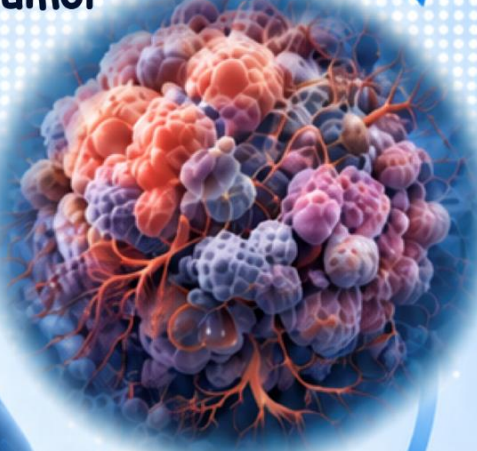
主 催

日本がん神経科学
ネットワーク (J-CNN)

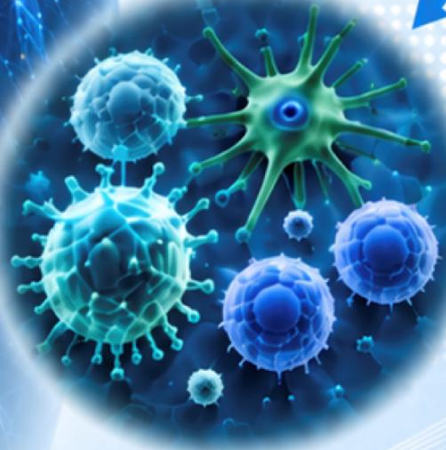
Neuron



Tumor



Immunity



第2回 日本がん神経科学研究会

Japan Cancer Neuroscience Meeting 2026

Program

Date	October 10, 2026 (Sat), 9:50–18:10
Venue	National Cancer Center Research Institute
Organizer	Japan Cancer Neuroscience Network
Conference Chair	Minoru Narita, Ph.D.

ご挨拶



第2回 日本がん神経科学研究会

Japan Cancer Neuroscience Meeting 2026

大会長 成田 年

星薬科大学 薬理学研究室

国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究ユニット

第2回 日本がん神経科学研究会 開催にあたって

このたび、「第2回 日本がん神経科学研究会」を日本のがん研究の聖地である国立がん研究センター研究所で開催できますことを、大会長として大変嬉しく思いますとともに、ご参加いただく皆様に心より御礼申し上げます。

私はこれまで、薬理学、神経科学、がん病態研究を基盤として、疼痛、ストレス、免疫応答、中枢神経系の変化が、がんの進展や治療反応性にどのような影響を及ぼすのかを追究してまいりました。その中で強く感じてきたのは、がん細胞は単独で存在するのではなく、周囲の神経系、自律神経、知覚神経、免疫系、さらには脳内ストレス応答系までも巧みに利用しながら、自らに有利な微小環境を形成しているという事実です。

近年、がん細胞が神経伸長を誘導し、神経の過活動を伴い、神経伝達物質や神経ペプチド、さらには免疫制御機構を介して、腫瘍の増殖、転移、免疫逃避、薬剤抵抗性を促進することが次第に明らかとなってきました。逆に言えば、こうした神経-腫瘍相互作用を理解し、その異常応答を制御することができれば、従来のがん治療では到達できなかった新たな治療戦略へとつながる可能性があります。

こうした“Cancer Neuroscience (がん神経科学)”という新たな学術領域は、ここ数年、欧米を中心に急速な発展を遂げており、Nature 誌、Cell 誌をはじめとする主要学術誌においても、繰り返し特集が組まれるようになっていきます。一方で、日本国内では、神経科学、腫瘍学、免疫学、薬理学、精神医学、データサイエンスなど、多様な分野を横断して議論する場はまだ十分とは言えません。

そのような背景のもと、本研究会は、昨年の第1回研究会を契機として、がん神経科学という新たな潮流を日本国内で育て、発展させることを目的に立ち上げられました。昨年、大会長を務められた川内先生が築かれた礎を受け継ぎ、本年は、さらに多くの研究者、臨床家、若手人材が集い、この領域の将来像をより具体的に議論できる場にしたいと考えております。

本研究会では、多彩な背景を持つ方々が一堂に会します。異なる専門性を持つ研究者同士が互いの視点をもち寄ることで、これまで見えていなかった新たな病態理解や治療戦略が生まれることを期待しております。

がん神経科学という領域は、まだ若く、未解明な部分も数多く残されています。しかし、それ故に、大きく未知なる「可能性」が存在します。がんと神経という、一見異なる二つの学問領域の接点には、次世代の治療標的、診断技術、支持療法、さらには患者の QOL 向上につながる多くのヒントが眠っています。本研究会が、分野や世代の垣根を越えた自由な議論と新たな連携を生み出し、日本発のがん神経科学ネットワークとして大きく成長していくことを願っております。

がんを知り、神経を知り、その接点から未来のがん治療を切り開く――。

そのような熱意を持つ皆様とともに、この新しい挑戦を共有できますことを、心より楽しみにしております。

2026 年 10 月 吉日

交通案内



国立がん研究センター研究所

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

- 都営地下鉄 大江戸線 築地市場駅 A3 番出口から徒歩 1 分
- 東京メトロ 日比谷線 築地駅 2 番出口から徒歩 5 分
- 東京メトロ 日比谷線・都営地下鉄 浅草線 東銀座駅 6 番出口から徒歩 5 分
- 東京メトロ 有楽町線 新富町駅 4 番出口から徒歩 10 分

【注意事項】

お車でお越しの場合、無料駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。
近隣の他施設・店舗等の駐車場には駐車しないようお願いいたします。
近隣の道路は駐車禁止です。路上駐車はしないようお願いいたします。

会場案内

国立がん研究センター研究所 1 階



参加者へのご案内

◆研究会名称

第2回 日本がん神経科学研究会
Japan Cancer Neuroscience Meeting 2026

◆開催日時

2026年10月10日(土)9:50～18:10

◆会場

国立がん研究センター研究所
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

◆主催

日本がん神経科学ネットワーク(J-CNN)

◆参加費

事前登録(一般)	3,000円
当日登録(一般)	3,500円
学生(学生証をご提示ください)	無料

◆懇親会

会場:シュマッツ 銀座松竹スクエア
日時:2026年10月10日(土)18:30～20:30
参加費:5,000円

◆受付

- ・当日9時より開始いたします
- ・1階受付にてお名前をお伺いし、ネームカードとプログラム抄録集1冊をお渡しいたします
- ・記名台でネームカードにご所属先・お名前をご記入ください
- ・ネームカードは会場設置のネームホルダーに入れて会期中は必ずご着用ください

◆当日参加登録

本研究会ではオンライン参加登録のみとなり、当日現地にて参加登録受付はございません。
研究会ホームページより、参加登録および参加費(クレジット決済のみ)をお支払いください。
<https://plaza.umin.ac.jp/j-cnn2026/registration.html>

◆クローク

クロークのご用意はございません。
大きいお荷物がございましたら受付にお声がけください。



発表に関するご案内

◆座長の皆さまへ

- ・ご担当セッション開始 15 分前までに講演会場内の次座長席へご着席ください
- ・進行は座長の先生にお任せいたしますが、終了時間は厳守くださいますようお願いいたします
- ・シンポジウムは、1 演題につき 15 分以内(発表 12 分、質疑 3 分)の進行をお願いいたします
- ・一般演題(口頭発表)は、1 演題につき 10 分以内(発表 7 分、質疑 3 分)の進行をお願いいたします

◆口演発表の皆さまへ

●受付について

- ・当日、PC センターはございません
- ・ご自身の PC をご持参の上、ご発表ください
- ・発表開始 30 分前までに講演会場内の PC オペレーター席に PC をお持ちください
- ・PC をお預けいただきましたら、次演者席にご着席ください

●進行について

- ・座長の進行のもと、発表を行ってください
- ・シンポジウムは 1 演題につき 15 分以内(発表 12 分、質疑 3 分)、発表言語は日本語をお願いいたします
- ・一般演題(口頭発表)は 1 演題につき 10 分以内(発表 7 分、質疑 3 分)、発表言語は日本語をお願いいたします

●発表スライドについて

- ・スライドの言語は日本語・英語のどちらでも差支えございません
- ・発表言語は日本語をお願いいたします
- ・演題発表者(複数いる場合は筆頭演者)と研究責任者は、利益相反について報告が必要です
スライド 2 枚目(タイトルの後)に COI を開示してください
- ・倫理審査が必要な研究の発表においては、倫理委員会の承認を演題採用の前提といたします

●PC ご持参の注意点

- ・接続コネクタは HDMI ケーブルとなります
- ・PC 本体の外部出力モニター端子の形状を確認し、必要な場合は専用の接続端子をご持参ください
- ・MacPC をお持ち込みの場合は「USB Type-C - HDMI 変換ケーブル・アダプタ」をご持参ください
- ・予めスクリーンセーバーならびに省電力設定は「なし」に設定してください
- ・AC アダプターは、必ず各自でご持参ください

※動画や音声などのメディアファイルをスライドに挿入することは可能ですが、すべての環境において正常に動作することを保証するものではありません。予めご了承ください。

◆ポスター発表の皆さまへ

発表場所: 国立がん研究センター研究所 エントランスホール

発表日時: 2026 年 10 月 10 日 (土) 14:00 ~ 14:40

●発表形式

- ・フリーディスカッション形式となります
- ・ポスター発表時間中は、ポスター前で待機してください

●発表データの作成

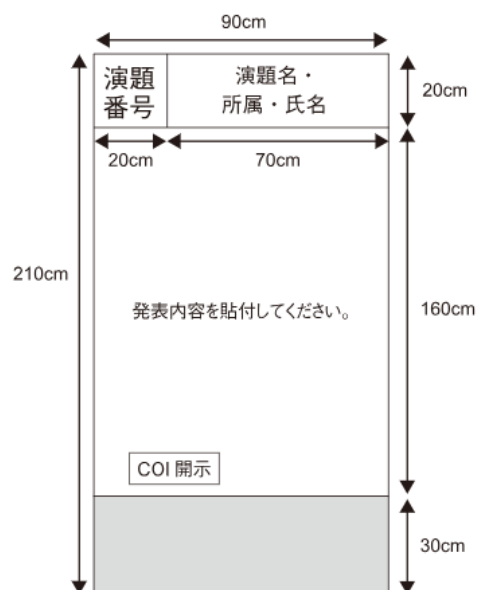
- ・ポスターのサイズは右図をご参照ください
- ・下 30cm は見えにくいので貼り付けないことをお勧めいたします
- ・演題番号 (20cm×20cm) は研究会にて用意いたします
- ・演題番号の横の演題名・所属・発表者名・共著者名
(発表者は先頭に記載し氏名の前に○をつける) の表示を、
縦 20cm×横 70cm で記載してください
- ・演題名は抄録登録時の英語の演題名と日本語の演題名も併記
してください
- ・内容は日本語・英語のどちらでも差支えございません
- ・演題発表者(複数いる場合は筆頭演者)と研究責任者は、利益相反について報告が必要です
ポスター内に COI を開示してください
- ・倫理審査が必要な研究の発表においては、倫理委員会の承認を演題採用の前提といたします

●ポスター貼付および撤去時間

貼付日時: 2026 年 10 月 10 日 (土) 9:15 ~ 9:50

撤去日時: 2026 年 10 月 10 日 (土) 16:00 ~ 17:00

- ・押しピンは研究会にて用意いたします
- ・時間を過ぎても撤去されない場合、撤去・処分させていただきますのでご了承ください



タイムテーブル

	第1会場 (大会議室)	第2会場 (セミナールームA・B)	ポスター会場 (エントランス)
9:15			9:15-9:50 ポスター貼付
9:50	開会挨拶 大会長：成田 年		ポスター掲示
10:00	10:00-11:00 特別講演 I Future Prospects of Cancer Research and Cancer Medicine 座長：成田 年 演者：間野 博行		
11:00	11:00-11:10 11:10-12:00 Featured Symposium I グリア・代謝・神経回路から紐解くがん病態 — がん神経科学の新展開 座長：上阪 直史 演者：杉浦 悠毅、小山 隆太、須田 雪明	11:00-11:10 ブレイクタイム	
12:00	12:00-12:15 お弁当配布	12:15-13:15 Luncheon Seminar The synapse as a starting point: from brain development to cancer neuroscience 演者：上阪 直史 Marker Antibodies for Neuroscience from FUJIFILM Wako: Developed to Meet Researchers' Needs 演者：平塚 大士 座長：嶋田 直人 共催：富士フィルム和光純薬株式会社	
13:00		13:20-13:55 Oral presentation 座長：南雲 康行 演者：濱田 源美、川上 正敬、川西 佳奈	
14:00			14:00-14:40 Poster presentation
15:00		14:45-15:25 Sweets Seminar In vivo reprogramming for biomedical research: Insights into cancer development and tissue rejuvenation 座長：金村 米博 演者：山田 泰広	ポスター掲示
16:00	15:35-16:00 Frontier Lecture The history of neural organoid research and its implications for cancer research 座長：澤田 雅人 演者：坂口 秀哉		
17:00	16:05-16:55 Featured Symposium II 分子・細胞動態から拓く腫瘍神経科学 座長：川島 雅央 演者：金村 米博、川内 大輔、澤田 雅人		16:00-17:00 ポスター撤去
18:00	17:00-18:00 特別講演 II Organoid-Based New Approach Methodologies in Cancer and Neuroscience 座長：葛巻 直子 演者：岡野 栄之		
19:00	閉会挨拶 大会長：成田 年		
20:30	18:30-20:30 懇親会 会場：シュマッツ 銀座松竹スクエア		

プログラム

9:50-10:00 開会挨拶

成田 年(星薬科大学 薬理学研究室)

10:00-11:00 特別講演 I

Future Prospects of Cancer Research and Cancer Medicine

座長:成田 年(星薬科大学 薬理学研究室)

演者:間野 博行(国立がん研究センター)

11:10-12:00

Featured Symposium I

グリア・代謝・神経回路から紐解くがん病態 — がん神経科学の新展開

座長:上阪 直史(東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 認知神経生物学分野)

FS1-1 Mass Spectrometry for Cancer Neuroimmunology: Tissue, Blood and Breath

杉浦 悠毅(京都大学大学院医学研究科附属 がん免疫総合研究センター
マルチオミクスプラットフォーム)

FS1-2 Controlling Microglial Phagocytosis for Brain Health and Cancer

小山 隆太(国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第二部)

**FS1-3 Hypothalamic CRH Neurons Orchestrate Brain-Periphery-Tumor Communication
(P-01) in Pancreatic Cancer Cachexia**

須田 雪明(星薬科大学 薬理学研究室)

12:15-13:15 Luncheon Seminar

共催:富士フイルム和光純薬株式会社

座長:嶋田 直人(富士フイルム和光純薬株式会社)

The synapse as a starting point: from brain development to cancer neuroscience

上阪 直史(東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 認知神経生物学分野)

**Marker Antibodies for Neuroscience from FUJIFILM Wako:
Developed to Meet Researchers' Needs**

平塚 大士(富士フイルム和光純薬株式会社)

13:20-13:55 Oral presentation

座長:南雲 康行(国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究ユニット)

**O-01 Reprogramming Cancer Cell-Derived CNS Tropism into Therapeutic T Cells
(P-05) through T-Cell Signaling for Brain Tumor Immunotherapy**

濱田 源実(国立がん研究センター 先端医療開発センター 新薬開発分野)

**O-02 A neuropeptide receptor as a candidate therapeutic vulnerability
(P-06) in small-cell lung cancer**

川上 正敬(東京大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学)

**O-03 Establishment of a Dorsal Root Ganglion and Breast Cancer Spheroid
(P-07) Co-culture Model to Investigate Nerve-Tumor Interactions**

川西 佳奈(京都大学大学院医学研究科 乳腺外科学)

14:00–14:40

Poster presentation

- P-01 (FS1-3) Hypothalamic CRH Neurons Orchestrate Brain–Periphery–Tumor Communication in Pancreatic Cancer Cachexia**
須田 雪明(星薬科大学 薬理学研究室)
- P-02 (FS2-1) Establishment of Human-Derived Cell Resources Supporting Cancer Neuroscience Research**
金村 米博(大阪医療センター 臨床研究センター 先進医療研究開発部)
- P-03 (FS2-2) Decoding the Brain Ecosystem: YAP1 Regulation in Glioma and Ependymoma**
川内 大輔(名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経科学研究所 腫瘍・神経生物学分野)
- P-04 (FS2-3) Shared morphological strategy for collective migration in neurons and glioblastoma cells**
澤田 雅人(関西学院大学 生命環境学部 生命医科学科)
- P-05 (O-01) Reprogramming Cancer Cell-Derived CNS Tropism into Therapeutic T Cells through T-Cell Signaling for Brain Tumor Immunotherapy**
濱田 源実(国立がん研究センター 先端医療開発センター 新薬開発分野)
- P-06 (O-02) A neuropeptide receptor as a candidate therapeutic vulnerability in small-cell lung cancer**
川上 正敬(東京大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学)
- P-07 (O-03) Establishment of a Dorsal Root Ganglion and Breast Cancer Spheroid Co-culture Model to Investigate Nerve-Tumor Interactions**
川西 佳奈(京都大学大学院医学研究科 乳腺外科学)
- P-08 Functional Analysis of the Human-Specific Gene NOTCH2NLB Using a mouse Glioblastoma Model**
Yuki Yamauchi¹, Ikuo Suzuki¹
1. Graduate School of Frontier Biosciences, The University of Osaka
- P-09 LRNF2, a postsynaptic adhesion-like molecule, regulates GBM progression mediated by PSD-95**
Chihiro Hayashi¹, Naoko Morimura¹, Kenny Daun², Tadateru Fukami³, Seiji Hitoshi¹
1. Department of Integrative Physiology, Shiga University of Medical Science,
2. Faculty of Resource Science and Technology, Universiti Malaysia Sarawak
3. Department of Neurosurgery, Shiga University of Medical Science
- P-10 Ultrastructural Features of Glioblastoma Cells during White Matter Invasion**
Yuki Inagaki¹, Mashiro Shirasawa¹, Sayuki Tsuda¹, Sasikarn Looprasertkul², Nobuhiko Ohno^{2,3}, Kazunobu Sawamoto^{4,5}, Masato Sawada¹
1. Dept Biomed Sci, Sch Biol Env Sci, Kwansei Gakuin Univ, Japan
2. Div Ultrastruct Res, NIPS, Japan.
3. Dept Anat Div Histol Cell Biol, Jichi Med Univ, Japan
4. Dept Dev Regen Neurobiol, IBS, Nagoya City Univ Grad Sch Med Sci, Japan
5. Div Neural Dev Regen, NIPS, Japan
- P-11 Molecular Diversity of Invasion Programs in Patient-Derived Glioblastoma Cells Stratified by L1CAM Expression**
Asako Katsuma¹, Daisuke Kanematsu², Yukako Handa¹, Tomoko Shofuda³, Atsuyo Yamamoto³, Zhize Xiao⁴, Kayo Nishitani⁵, Daisuke Kawauchi^{4,5}, Kentarou Baba⁶, Naoyuki Inagaki⁷, Yonehiro Kanemura^{1,2,8}

- 1.Division of Regenerative Medicine, Department of Biomedical Research and Innovation, Institute for Clinical Research, NHO Osaka National Hospital, Osaka, Japan
- 2.Division of Molecular Medicine, Department of Biomedical Research and Innovation, Institute for Clinical Research, NHO Osaka National Hospital, Osaka, Japan
- 3.Division of Stem Cell Research, Department of Biomedical Research and Innovation, Institute for Clinical Research, NHO Osaka National Hospital, Osaka, Japan
- 4.Department of Neuro- Oncology, Institute of Brain Science, Graduate School of Medical Sciences, Nagoya City University, Nagoya, Japan
- 5.Department of Biochemistry and Cellular Biology, National Center of Neurology and Psychiatry, Tokyo, Japan
- 6.Department of Stem Cell Biology and Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, Fukuoka, Japan
- 7.Laboratory of Mechano-Systems Biology and Medicine, Strategic Initiative for Research and Innovation, Nara Institute of Science and Technology, Ikoma, Nara, Japan
- 8.Department of Neurosurgery, NHO Osaka National Hospital, Osaka, Japan

P-12 Local Sustained Delivery of an Anti-Angiogenic Antibody Using a Jigsaw-Shaped Self-Assembling Peptide (JigSAP) for Glioma Therapy

Itsuki Ajioka^{1,2,3}, Takahiro Muraoka⁴

- 1.Center for Brain Integration Research (CBIR), Institute of Biomedical Engineering, Institute of Science Tokyo
- 2.Department of Material-Based Neuroscience, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Institute of Science Tokyo
- 3.Research Center for Autonomous Systems Materialogy (ASMat), Institute of Integrated Research, Institute of Science Tokyo
- 4.Department of Applied Chemistry, Graduate School of Engineering, Tokyo University of Agriculture and Technology

P-13 NRF3-CTGF axis induces myCAF differentiation to promote perineural invasion in PDAC

Hossain A K M Zakir¹, Riko Fukuda¹, Hisamatsu Keisuke¹, Hirotomo Banno¹, Atsushi Masamune³, Akira Kobayashi^{1,2}

- 1.Doshisha University, Graduate School of Life and Medical Sciences
- 2.Doshisha University, Faculty of Life and Medical Sciences
- 3.Tohoku University, Graduate School of Medicine

P-14 Netrin-1 links axon-guidance signaling to peripheral nerve remodeling in pancreatic cancer.

Yosuke Ochiai

Division of Surgical Oncology, Department of Surgery Nagoya University Graduate School of Medicine

P-15 Brainstem Autonomic Circuit Hyperactivity Drives Systemic Deterioration in Cancer Cachexia

Manaka Kakiuchi^{1,2}, Michiko Narita², Yukari Suda^{1,2}, Yusuke Hamada^{1,2}, Naoko Kuzumaki^{1,2}, Minoru Narita^{1,2}

- 1.Department of Pharmacology, Hoshi University
- 2.Laboratory of Cancer Pathophysiology, National Cancer Center Research Institute

P-16 Effects of Ultrasound Exposure on Cancer Cachexia Symptoms

Satoka Kasai¹, Mai Mikuriya¹, Kazumi Yoshizawa¹, Akiyoshi Saitoh², Satoru Miyazaki³

- 1.Laboratory of Pharmacology and Therapeutics, Department of Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science
- 2.Laboratory of Pharmacology, Department of Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science
- 3.Laboratory of Bioinformatics, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science

- P-17 Sensory Neuron–Driven Neuroimmune Signaling Shapes Therapeutic Adaptation to EGFR-Targeted Therapy in NSCLC**
Hitoshi Makabe^{1,2}, Jion Takise^{1,2}, Yasuyuki Nagumo², Michiko Narita², Yukari Suda^{1,2}, Yusuke Hamada^{1,2}, Naoko Kuzumaki^{1,2}, Minoru Narita^{1,2}
1.Dept. Pharmacol., Hoshi Univ.
2.Lab. Pathophysiol., Natl. Cancer Ctr. Res. Inst.
- P-18 Differential regulation of the sensory neuron–immune–tumor axis by μ - and κ -opioid receptors in breast cancer**
Jion Takise^{1,2}, Hitoshi Makabe^{1,2}, Michiko Narita², Takumi Yoshizawa^{1,2,3}, Yusuke Hamada^{1,2}, Yukari Suda^{1,2}, Yasuyuki Nagumo², Naoko Kuzumaki^{1,2}, Minoru Narita^{1,2}
1.Department of Pharmacology, Hoshi University
2.Laboratory of Cancer Pathophysiology, National Cancer Center Japan Research Institute
3.Laboratory of Pharmacology and Therapeutics, Department of Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science
- P-19 Opposing roles of central and peripheral μ -opioid systems in tumor immune regulation**
Yusuke Hamada^{1,2}, Michiko Narita², Yukari Suda^{1,2}, Naoko Kuzumaki^{1,2}, Minoru Narita^{1,2}
1.Department of Pharmacology, Hoshi University
2.Laboratory of Cancer Pathophysiology, National Cancer Center Research Institute
- P-20 Elucidation of the mechanisms determining the permeability and stiffness of patient-derived colorectal cancer organoids**
Shotaro Tanaka¹, Fumio Nakamura¹
1.Tokyo Women's Medical University, Department of Biochemistry
- P-21 ProSeg-based preprocessing of Spatial Transcriptomic data enhances the accuracy of cell segmentation and improves transcript assignment efficiency in breast cancer brain metastases.**
Zhu Zhenyu¹, Masahiro Kawashima¹, Akane Higami¹, Ai Yamaguchi¹, Fengling Pu¹, Tatsuki Kataoka², Yurina Maeshima¹, Norikazu Masuda¹
1.Department of Breast Surgery, Kyoto University
2.Department of Pathology, Kyoto University
- P-22 Sensory Neuron-Derived CGRP Signaling Links Tumor Progression to Highly Plastic Cell States in Breast Cancer**
Ryuto Nakamura^{1,2}, Hitoshi Makabe^{1,2}, Michiko Narita², Yasuyuki Nagumo², Jion Takise^{1,2}, Takumi Yoshizawa^{1,2,3}, Yusuke Hamada^{1,2}, Yukari Suda^{1,2}, Naoko Kuzumaki^{1,2}, Minoru Narita^{1,2}
1.Department of Pharmacology, Hoshi University
2.Laboratory of Cancer Pathophysiology, National Cancer Center Japan Research Institute
3.Laboratory of Pharmacology and Therapeutics, Department of Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science
- P-23 Single-Molecule Analysis of Counterbalancing Signaling in Sensory Neuron–Breast Cancer Interactions**
Masanori Fujiwara^{1,2,3}, Hitoshi Makabe^{1,2,4}, Toshiaki Mori^{3,5}, Ryo Yoshizawa³, Michiko Narita², Naoko Kuzumaki^{1,2}, Yasuyuki Nagumo², Kenichi G.N. Suzuki^{3,5}, Rinshi S. Kasai³, Minoru Narita^{1,2}
1.Department of Pharmacology, Hoshi University
2.Laboratory of Cancer Pathophysiology, National Cancer Center Research Institute
3.Division of Advanced Bioimaging, National Cancer Center Research Institute
4.Pharmacy Department, The Cancer Institute Hospital of JFCR
5.Institute for Glyco-Core Research (iGCORE), Gifu University

P-24 BRAF inhibitor-induced stabilization of KSR1 scaffold nanoclusters facilitates RAS/MAPK pathway reactivation

Ryo Yoshizawa¹, Kenichi Suzuki^{1,2}

1.Natl. Cancer Ctr. Res. Inst.

2.iGCORE, Gifu Univ.

P-25 Approaches to elucidate cell-cell communication signals using a single-molecule observation technique

Rinshi Kasai¹, Masanori Fujiwara^{1,2}, Karin Watanabe^{1,2}, Miu Kurihashi^{1,2}, Nao Kawamura^{1,2}, Minoru Narita^{1,2}

1.Division of Advanced Bioimaging, National Cancer Center Research Institute, Japan

2.Hoshi University, Japan

P-26 Cancer-Specific Patterns of Health Information Needs and Psychosocial Concerns in Japan: A Google Trends Related Query Analysis

Hideaki Kato¹, Tsutomu Suzuki¹

1.Shonan University of Medical Sciences

14:45-15:25

Sweets Seminar

In vivo reprogramming for biomedical research: Insights into cancer development and tissue rejuvenation

座長: 金村 米博(大阪医療センター 臨床研究センター 先進医療研究開発部)

演者: 山田 泰広(東京大学大学院医学系研究科 分子病理学分野)

15:35-16:00

Frontier Lecture

The history of neural organoid research and its implications for cancer research

座長: 澤田 雅人(関西学院大学 生命環境学部 生命医科学科)

演者: 坂口 秀哉(国立成育医療研究センター 精密創薬研究部 実験薬理研究室)

16:05-16:55

Featured Symposium II

分子・細胞動態から拓く腫瘍神経科学

座長: 川島 雅央(京都大学 医学研究科 乳腺外科学)

FS2-1 (P-02) Establishment of Human-Derived Cell Resources Supporting Cancer Neuroscience Research

金村 米博(大阪医療センター 臨床研究センター 先進医療研究開発部)

FS2-2 (P-03) Decoding the Brain Ecosystem: YAP1 Regulation in Glioma and Ependymoma

川内 大輔(名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経科学研究所
腫瘍・神経生物学分野)

FS2-3 (P-04) Shared morphological strategy for collective migration in neurons and glioblastoma cells

澤田 雅人(関西学院大学 生命環境学部 生命医科学科)

17:00-18:00

特別講演 II

Organoid-Based New Approach Methodologies in Cancer and Neuroscience

座長: 葛巻 直子(星薬科大学 薬理学研究室)

演者: 岡野 栄之(慶應義塾大学再生医療リサーチセンター)

18:00-18:10

閉会挨拶

成田 年(星薬科大学 薬理学研究室)

組織委員・実行委員

大会長	成田 年
実行委員長	南雲 康行
プログラム委員長	葛巻 直子
組織委員	上阪 直史 金村 米博 川内 大輔 澤田 雅人
実行委員	須田 雪明 成田 道子 濱田 祐輔

第2回 日本がん神経科学研究会運営事務局
サポートリンク合同会社
〒572-0042
大阪府寝屋川市東大利町 5-12-302
TEL : 072-813-2828
Email : j-cnn2026@sprt-link.jp